

不妊治療助成制度について

小林節子 議員



問：小林節子議員

不妊治療は、医療保険の対象外で、治療には大きな経済的負担を強いられている。来年度から町助成の考えはあるか。医療保険制度の適用を、国に働きかける考えはあるか。

答：矢嶋町長

少子化対策・母子保健事業の充実策として、来年度より不妊治療費の一部を助

成する予定である。医療保険の適用は、保険法の定める所によるので、町としての方策は立てられない。

問

地産・地消の学校での取り組みとして、地域食材の日として今年3回実施されたが、学校給食の立場としてなにか課題があったか。

米パンについてはどのような状況であったか。今後の方向はどのように考えているか。

答：小松教育長

実施に当たり関係団体の協力に感謝している。

学校給食は、子供には食材の選択権がない。食材購入にあたり、安全・安定・安心・安心の4点を購入の基本的基準とし、学校の主体的な判断のもとに購入するように指示している。米パンは、



学校給食を楽しむ本郷小児童

好評であったが、製造技術や価格に問題があった。来年度も引き続き実施予定である。

問

文部科学省が新年度から実施予定の「子供居場所づくり新プラン」を受けて、地域で子供を育てるための「地域子供教室」を立ち上げる考えはないか。

答：教育長

このプランは、大都市発想のプランで、当町での実施は難しい。「集落子供会」の活動を盛んにすることを入れている。

小集落の区長職へ支援を

名取末吉 議員



問：名取末吉議員

長期まちづくり計画の中で、少子高齢化問題は大きな課題である。とくに小集落での高齢化は、区長職の遂行を困難なものにしている。若い区長の方は勤務先で気を使って苦慮している。行政として見直す考えはないか。

答：矢嶋町長

各区内の人口減少は問題



新しい区長さん達です よろしく

であ。しかし、区行政の運営は自発的に行われるのが望ましいので、町としてかわる考えはもっていない。

問

区の運営には財政問題がからんでいるが、地域振興補助金等がカットされれば、区費等も上げざるを得ない状況である。小集落を統合して区長の専従制の考えは。

答：町長

町から区の再編をとのことを指導する立場ではないと考えるが、区行政の相談にはのっていききたい。

問

地区行政を考える委員会を設置する考えは。答：町長
現在、委員会設置の考えはない。